

# 新市町村の横顔

## 金砂郷村



成井村長

金砂郷村はちよとそんな所だ。

東に常陸太田市、西に大宮町と接しているが、この両者を結ぶ路線は、この村の南端をかすめるだけである。本村は路線の谷間でもあるが、又地勢上でも谷間の様相を呈している。南北に長く17.0km、東西5.7km、総面積63.14km<sup>2</sup>、八溝山脈の支流の小高い丘陵の間を縫つて、一本の道路が縦貫している。常陸太田登山方行のバスがここを走る。

この村は昭和30年4月15日に旧金砂、金郷、郡戸、久米の4村が合併して誕生したが、新村名はその名の示すとおり、昔金砂山の山中から砂金が流出し、その辺一帯が、金砂郷と称せられていたことから、新村誕生にあたり、再び村名として採用されたわけである。

ここは元佐竹の藩の所領であつたが、慶長7年佐竹氏が秋田に移され、同14年徳川頼房を水戸藩主に迎えて以後は水戸家の所領となつた。現在村の構成は23の大字からなつているが、これらの大字は昔村と呼ばれていたもので、旧4村の形態になつたのは明治22年町村制施行の際による。昭和34年4月末の世帯数は2,792戸、人口15,491人(男7,404人、女8,087人)県下36村のうち6番目に人口の多い村である。

## 2. 産 業

## 1. 沿 革

最近バス路線のとめどない発達で、どんな土地へ行くにも随分と便利になつたがそれでも時に、路線の谷間といったような所があつて、バスの往復が午前と午後とそれぞれ2回づつといった具合で、ちよつと隣の街に行くにも、朝早く出かけて帰りが午後になるということにな

村の農家世帯2,377は全世帯の85%、農家人口13,361人は全人口の86%と、本村の純農村であることをよく示している。主要生産物は米、麦、たばこで、特にたばこは隣の水府村と共に水府種の産地で、31年の生産額は1億2千万円であり、年々品質改善のために多額の金が支出されている。だが本村の農業には後進性を指摘できる点が若干ある。その一つは耕地整理があまり進んでいないことである。従つて一毛作田は93%と多い。これは1戸当り田畑の所有が0.75ヘクタールと少いのと共に考えるべき問題である。最近旧金砂地区にこんにやくの組合が出来、又旧郡戸、久米、金郷地区に、もも、なしの組合が結成されて、村から補助金が出され、農事研究会が開かれてその栽培に力を入れ始めたのは、この問題に一步を踏み込んだことといえよう。

村の半分を占める山林原野は、この村の林野生産物を豊かに色どつている。用材の生産高620m<sup>3</sup>15,573千円、木炭20,483俵、7,029千円、薪130,000束、2,200千円、竹400千円、杉檜皮110千円は、山村の性格を本村に加えることにならうか。

## 3. 教育文化

本年4月30日成井村長が無競争当選した。新村長を迎えて第2段階の新村建設が始まろうとしている。新村建設計画事務局が設置されて、過去の分析と将来への設計が着々と進められている。しかし本村は縦に細長い地勢の関係から行政上の問題点も多い。たとえば役場新庁舎の建設にしても、どの位置に建設すればすべての住民にとつて便利かということで悩んでいる。学校の統廃合にしても、それを無理に強行することは、かえつて児童に負担をかけかねない。

昨年までの重点事業として、小学校の増築、或いは道路補修用砂利運搬のトラックの購入、国民健康保険の実施などそれはそれなりの実績をおさめて来たが、尚今後につつことの多い本村の発展を新村長と共に期待しよう

昭和34年度一般会計歳入歳出予算

(単位円)

歳入	村 税	地 方 交 付 税	公管企業及 び財産収入	使用料及 び手数料	国 庫 支 出 金	県支出金	寄 附 金	繰 越 金	雑 収 入	合 計					
	20,130,000	24,300,000	9,064,000	530,000	521,000	1,433,000	160,000	2,151,000	1,244,000	59,533,000					
歳出	議会費	役場費	警 察 消 防 費	土 木 費	教 育 費	社 会 保 健 産 業 勞 働 費	衛 生 費	経 済 費	財 産 費	統 計 調 査 費	選 挙 費	公 債 費	諸 支 出 金	予 備 費	合 計
	2,362,000	16,484,000	2,768,000	3,732,000	9,778,000	337,000	623,000	4,955,000	10,200,000	145,000	1,316,000	525,000	6,058,000	250,000	59,533,000

## 人 さ ま ざ ま

青木正寿

わが統計課の窓口事務を取扱うようになったのは昨年の9月からである。それから約9カ月のあいだ統計課を訪ねてこられる方々を私は私なりに見ているが、いろいろなことを勉強させられ、窓口事務もまたなかなか楽しいものである。

まずドアをノックして礼儀正しく訪れてくる人（もつともこんな人は何十人かに一人で……私はこれを純情型と名づけている。）次は入ってきて、課内を一順してやおら用件を切り出す一順型、入ってきてあいさつぬきでいきなり「誰誰さんおりますか」といういわゆる性急型、そうかと思うと入ってきて物もいわずに、によきり突立つて課内を見まわし、訪れる人がいないと思うとまただまつて帰るだんまり型や、用件がすむと最後には必ず一つ一つ念をおしてゆく慎重型、入ってくる時持ってきた書類

袋や週刊雑誌など忘れてゆく健忘型、ドアを開けて入口のつい立から課内のようすをヒョイトとのぞいて、またヒョイトと帰つて行くのぞき型、入つてきて自分の用件だけペラペラしやべつて、こちらの返事もろくろくきかないで、そそくさと帰つて行くそこつ型、おうへいに「課長は」とときく威圧型、自分の思う通りにならないとすこんでゆくおどし型など全く千差万別である。

お客さんには甚だもつて失礼千万なことではあるが、私は統計課を訪ねてくる人々をこのように一つ一つの型にはめて、見たり、接したりしているので近頃はこんどはどんな型の人々がたずねてこられるかと楽しみにしている。そしてまた自分は一体どの型に入るだろうかと考えてひやあせをかくしまつてゐる。

統計的批評

統計的批評

## 訂正

本誌4.5月合併号に掲載いたしました「本県の人口」の内容に下記のとおり誤りがありましたので訂正いたします。

ページ	事	項	誤	正
6頁	昭和32年12月	人口 対前月増減	999	899
〃	〃	〃 増加率(%)	0.05	0.04
〃	昭和32年年間合計	人口 対前月増減	760	660
〃	〃	〃 増加率(%)	0.06	0.05
8頁	昭和32年4月	社会移動による増減	△ 3,411	△ 3,419
10頁	東京の欄	下から5行目	46.3	46.2
13頁	土浦市	人口 男	85,051	35,051
14頁	江戸崎町	人口 総数	18,506	13,506
16頁	市計	世帯数	174,673	175,673
17頁	美浦村	世帯数	1,123	1,723